

公共施設マネジメント調査特別委員会

表からの続き

2012年には、熊本市民病院の現地建替え方針が決定

2012年に開かれた「市民病院のあり方に関する特別委員会」では、熊本市自身が、①交通の要衝であり利便性が高い、②影響額を含めた費用面でも現地建替えが優位などの理由を示し、現在地で南館・北館を建て

替えるとの方針を示し、議会としても現地建替え方針を決定しました。

こうした方針を180度転換するわけですから、市として移転建替えとすべき明確な根拠を示すべきです。

利便性・費用面・再建時期など具体的な情報提供を！

なすまどか委員は、市民病院移転について、①市電やバスの便数なども減少し市民にとって利便性の低下となるのではないかと？②移転すれば現在の市民病院の新館を建設した際の企業債の一括返済が必要となり、新たな財政負担が生じるのではないかと？③自衛隊の近くとなり利点があるという具体的な利点はなにか？④国の医療費削減路線の下で、移転後の病床数も確定していない。現時点で、必要な敷地がどれだけなのかなど、決めることはできないのではないかと？⑤現地建替えは、実施設計まで進んでいることから、より早い再建という

点でも現地建替えが優位ではないか？などの点を指摘し、具体的な情報の提供を求めました。

市からは「情報については、なるべく早く示したい」との答弁がなされました。

病院の被害実態を調査

6月23日には、市民病院の被害実態の調査も行われました。



内壁が剥離し鉄柱がむき出しになっている箇所

【国民健康保険】

一般会計繰入れを増やし、保険料の負担軽減を

赤字補てん分の一般会計繰り入れが、大西市長になり大幅減額

単位：億円

(年度)	2010	2011	2012	2013	2014	2015
単年度収支	+9.2	+19.8	+31.1	+6.9	△5.5	△21.6
累積収支	△72.8	△53	△21.9	△14.9	△20.4	△42
赤字補てん	17.2	18.2	28.2	28.2	20	8

前市長の下、2014年までは、国保財政健全化計画の中で一般会計繰り入れ赤字補てん分が増額され、単年度収支ならびに累積収支が一定改善されてきました。しかし、大西市長になった2015年度予算から赤字補てん分の繰り入れが大幅に減額(8億円)され、累積赤字が一挙に2倍以上の42億円にまで膨れ上がりました。

市民には保険料の値上げ押しつけ、所得200万円家族4人で11960円

今年度から保険料が引き上げられました。総額5億円の保険料負担増です。所得に占める保険料の割合は、15~20%にもなります。負担の限界を超えた保険料の軽減こそ必要です。国保財政の県への移管が2年後の平成30年度に迫っています。そのとき大きな赤字を抱えていれば、市の責任で赤字解消策を考えなければなりません。そうならないためにも、大きく減額した一般会計繰り入れを元に戻し、計画的な赤字解消策に努めていくことが求められます。

【モデル世帯の値上げ額は】

- ・所得200万円の単身世帯  
年間保険料 315,170円 +8,980円 (2.9%UP)
- ・所得200万円の4人世帯  
年間保険料 399,070円 +11,960円 (3.1%UP)
- ・所得260万円の4人世帯  
年間保険料 524,570円 +15,680円 (3.1%UP)



## 熊本市市民病院の移転建替えの是非について審議

6月23日、24日、市議会「公共施設マネジメント調査特別委員会」が開かれ、熊本市が示している市民病院の移転計画の是非について議論が行われました。



## 「現地建替え」と「移転建替え」のメリット・デメリットの情報提供を！

熊本地震で大きな被害を受けた市民病院（東区湖東）。大西市長は、5月13日、市民病院の移転建替え（東区東町4丁目）の方針を明らかにしました。

一日も早い再建が必要なことは言うまでもありませんが、市民や議会への説明もなく、一方的な移転計画発表は、あまりにも乱暴なやり方と言わざるを得ません。

特別委員会では、多くの委員から「なぜ、移転建て替えなのか？その理由を示す根拠も情報も示されていない。」「現地建替えと移転建替えのメリット・デメリットの情報を示すべき」との指摘が相次ぎました。

移転の是非については、引き続き同委員会で審議される予定です。（裏に続く）

「市議会だより」1000号突破に寄せて

西川 悦子（元市議団事務局長）

「市議会だより」の発行が1,000号を超えたことに感慨深いものがあります。私が、熊本市議団に勤務したのは42年も前のことです。沢田一郎市議や岩下恵治市議と共に、苦勞もありましたが、市議会だよりを発行していました。当時は、市議が原稿を書き、それを和文タイプで仕上げるというたいへんな作業でしばしば夜遅くまでかかっていた。共産党議員がゼロになって熊本市議会が空白となるまで18年間勤務しました。

「市立図書館を考える会」や「熊本市電を守る会」の運動など、住民のみなさんとの架け橋となったのが「市議会だより」でした。市電を利用するたびに「本当にみんなの力で市電を守ってよかったな」と思います。

毎週発行することはたいへんですが、これからも市議会や市政のさまざまな問題を住民にお知らせする貴重な情報源として頑張ってください。

【控室から】

市議会だより、21年間・毎週発行  
上野 みえこ

毎週発行してきた日本共産党市議団の市議会だよりが、6月に1000号を迎えました。1995年6月の第1号からちょうど21年になります。私は、市議団事務局として1996年秋から紙面の編集にかかりました。益田・重松両議員の書いた記事をワープロで清書し、原稿用紙に切ったり張ったりし、タイトルは字が上手な益田議員のご主人に手書きで入れてもらっていました。今はすべてパソコンの画面で編集していますが、当時のものは、手作りの味わいあるニュースに仕上がっていたと思います。もちろん、印刷も輪転機を自分で回し、何十枚も刷っていました。初めて記事を書いたのは、1997年11月に志位委員長（当時は書記局長）を迎え開かれた赤旗まつりの感想でした。「住民こそ主人公」の立場で、途切れることなく地道に、毎週発行できたのは、前市議団長の益田議員の熱意の賜物です。先輩方の熱い思いをしっかりと受け継いで、様々な市政の課題に取り組みながら、1500号、2000号へと続けていきたいと思えます。発行にご協力いただいたみなさまに心よりお礼申し上げます。



日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団  
上野みえこ なすまだか 山部洋史  
熊本市中央区手取本町1-1 議会棟

NO. 1003  
2016年7月3日号  
電話 328-2656  
FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp  
ホーム：http://www.jcp-kumamoto.com/